

事例③

「片平小学校周辺の自主防による連絡先の共有や共同訓練の取組み」概要

発表者：小田急さつき台自治会自主防災組織 土屋 隆俊 本部長

1 自治会長になったことから

- ・4年前に定年退職し、自治会長になった。会長になると地域が抱える課題等もよくわかり、周辺の自治会や行政機関等とも連携しながらまちづくりに関わっていける。自治会長になって本当に良かったと思っている。
- ・さつき台駅前のホームセンターが撤退した際にもまちづくり委員会に参加し、跡地に建つフィットネスジムの事業者と交渉して、地域の要望であったランドリーカフェを併設してもらった。また、災害時の一時避難先としての利用も働きかけ、前向きな答えももらっている。そういったことにも関わることができる。



2 経験や職歴を伺って、助けていただく

- ・一般に、リタイヤして地域活動を始める方は、それまでの経歴を披露するのははばかるものだが、さりげなく伺って、それまでの経験を地域で活かしてもらおうように心掛けています。当自治会でも、警視庁のレスキュー隊の隊長をされていた方がいらっしゃり、お願いして自主防災組織の副本部長になってもらった。後述の無線機の訓練の際にもレクチャーをしてもらった。
- ・五力田町内会に元麻生消防署の方がいらっしゃり、お声掛けをして、色々とアドバイスをもらっている。

3 キーマンを見つける

- ・区役所職員や自主防災組織連絡協議会の役員、また周辺の自主防災組織の会長・副会長など、キーマンを見つけて親しくなっていくことが必要だと思う。

- ・自治会長は1年交代だが、退任後に自主防災組織の本部長となった。自主防災組織の本部長は複数年可能。自主防災組織の本部長もありがたい役職で、自主防災組織主催で自治会館等のイベントができる。そうした活動の中で新たなキーマンに出会うことができている。
- ・地区内に有名なニュースキャスターがお住まいで、講演会をしてもらっている。会員も多く来てくれる上に、他の自治会からも参加希望者があり、そこでも新たなキーマンとの出会いがある。

4 自分から動き、きっかけを作る

- ・小田急さつき台自治会ではできていないが、片平町内会では防犯パトロールを行っており、お手伝いで一緒に回っている。そうすることで小田急さつき台の地区も一緒に回ってもらえるし、話をしながら回ることで、親しくもなれる。そうやって顔なじみを作っていくことが大切だと思っている。

5 連携の事例

- ・近隣の自治会・自主防災組織の方とは、前述のような色々な機会で見知り合い、連絡先を交換している。
- ・新百合ヶ丘自治会自主防災組織に防災士の資格を持っている方がいて、色々なアドバイスをもらっている。当組織のアドバイザーに正式に就任してもらい、会合にも出席していただいている。
- ・片平・五力田・古沢の各自主防災組織と共同で同じ機種 of 防災無線を購入している。きっかけは、はるひ野町内会の方から無線機の有用性について教えていただき、小田急さつき台自治会で購入したのが始まり。新百合ヶ丘自治会の方から機種をそろえての共同購入の提案があり、周りの自主防災組織にも声を掛け、現在の形になった。今年度4つの自主防で共同の交信訓練を行い、無線番号簿も共有した。

